



2019. 1. 29 (自然科学館周辺で撮影)

ウスタビガの繭

(チョウ目ヤママユガ科)

繭まゆは、6月頃に幼虫ようちゆうによって、蛹さなぎになるときに作られます。この繭の中で、蛹が11月頃まで成長し、羽化うかして中からが空になります。冬には、サクラの葉が落ちるため、鮮やかな黄緑色の繭を観察しやすくなります。

繭の形が提灯ちようちん (手火たひ) や足袋たび に似ていることから、ウスタビガを漢字で「薄手火蛾うすたびが」や「薄足袋蛾うすたびが」と表します。繭の上部には羽化するための、下部には水を抜くための穴ぬが開いています。